

令和6年能登半島地震にかかると 長浜赤十字病院の対応状況

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地へ1月2日から救護班等を派遣し、現地病院や避難所、救護所等で救護活動を行っています。

※日本赤十字社の全社的な対応については、

こちら https://www.jrc.or.jp/domestic_rescue/2024notoearthquake.html より

(日本赤十字社本社ホームページにリンクします。)

救護班等の派遣実績

【 救護班 】

○救護班 第1班 (1月2日 ~ 1月6日)

医師 3名、看護師 2名、薬剤師 1名、臨床工学技士 1名、理学療法士 1名

○救護班 第2班 (1月10日 ~ 1月14日)

医師 2名、看護師 3名、薬剤師 1名、事務管理要員 1名

○救護班 第3班 (1月20日 ~ 1月24日)

医師 2名、看護師 3名、薬剤師 1名、事務管理要員 2名

○救護班 第4班 (1月30日 ~ 2月3日)

医師 3名、看護師 3名、薬剤師 1名、事務管理要員 2名

○救護班 第5班 (2月4日 ~ 2月8日)

医師 2名、看護師 3名、薬剤師 1名、事務管理要員 2名

救護班等の派遣実績

【 DMAT 、 コーディネートチーム 】

ODMAT 第1班 (1月10日 ~ 1月14日)

医師 2名、看護師 2名、業務調整員 2名

OCoT 第1班 (1月20日 ~ 1月26日)

医師 1名、看護師 1名、臨床工学技士 1名、理学療法士 1名)

ODMAT ロジスティックチーム (2月13日 ~ 2月18日)

看護師 3名

救護班等の派遣実績

【 病院支援 、 こころのケア調整員 】

○被災地病院支援 (1月17日 ~ 1月22日)

看護師 1名

○こころのケア調整員 (1月21日 ~ 1月29日)

看護師 1名

○被災地病院支援 (2月1日 ~ 2月7日)

看護師 1名

○被災地病院支援 (2月11日 ~ 2月16日)

看護師 1名

○被災地病院支援 (2月16日 ~ 2月22日)

看護師 1名

救護班等の派遣実績

【 病院支援 、 こころのケア調整員 】

○こころのケア調整員（3月9日～3月16日）

看護師 1名

第1班の活動の様子が新聞、テレビ等で報道されました。

被災地支援の医師「非常に劣悪な状況」

1/7(日) 19:57 配信 1 X f

BBCびわ湖放送



BBCびわ湖放送

能登半島地震の被災地支援のため派遣された日本赤十字の救護班が6日夜、現地から戻り、被災地の深刻な現状などを報告しました。長浜赤十字病院で報告を行ったのは、発災翌日の今月2日から、被災地の石川県輪島市や志賀町などに派遣され、日赤滋賀県支部の救護班第1班として巡回診療などを行っていた9人です。会見で9人は、建物被害が東日本大震災の現場以上にひどいと感じたことや、避難所で水がなく、衛生状態の悪化に伴うノロウイルスや新型コロナウイルスの感染症が広がりがつあることなど、現地の深刻な状況を語りました。その上で、多くの人命を救うために、大勢の医療スタッフによる継続的な支援の必要性を訴えています。

京都新聞

2024年(令和6年)1月7日 日曜日 地域 18

滋賀

「家屋・道路損壊ひどい」

能登地震支援 長浜赤十字病院医師ら 活動報告 衛生環境悪化 感染症懸念

能登半島地震被害を受けた医療が必要のあった。支援のため日本赤十字社支部救護班第1班として石川県に赴いていた長浜赤十字病院の医師や看護師9人が6日、現地から戻り、長浜市高前町の同病院で活動を報告した。9人は発災翌の2日に出発した。被災地の情報が乏しい中、被害の大きい輪島市による入る人が多かった。市内の避難所について、



た所外に被災者が目立った。設けた所もあり、把握し辛かったという。水不足のためトイレの衛生環境が悪く、コロナなどの感染症も一部で広がっているという。本震や熊本地震の被災地で医療提供が必要指摘した。(川村一)

被災地も訪れたが、なな休職は今後長く、屋敷や道路損壊は特に考えられ、継続的に取り組む必要がある。被災地で医療提供が必要指摘した。(川村一)